

## 認知症カフェを活用した高齢者の社会参加促進に関する調査研究事業

社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター

(報告書 A 4 版 113 頁)

## 事業目的

認知症カフェは、平成24年「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」で認知症の人やその家族等に対する支援として紹介された。その後「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」において、市町村に1カ所設置を目標と掲げたことによりさらに増加の一途をたどり、平成28年度末時点で4,000カ所以上の認知症カフェが設置されている。「認知症カフェ」は、自由に開設することが可能で、認知症の人や家族、地域の人、専門職が集う場であること以外は、設置基準や内容などは設けられていないものの、その社会的意義や認知症の人やその家族の早期支援に結び付くための、切れ目のない支援を実現するための新たなインフラとして有用性や必要性が認識されつつある。しかし、継続については課題と考えている運営者も多く存在する。当法人が運営する認知症介護研究・研修仙台センター（以下、当センター）では、平成28年度老人保健健康増進等事業において、全国1,477件の認知症カフェを対象にした質問紙調査により、その課題と継続の要因を探り、一定の共通概念を提示した。この調査は現時点では最も包括的な調査と考えられるが、この調査結果より、継続している認知症カフェの特徴として、地域の既存高齢者等団体との連携や協働が重要なポイントであることが明らかになった。また、認知症カフェには、地域の高齢者の社会参加や活動の場と同時に、認知症になっても地域で暮らすために必要なソーシャルサポート機能の強化への可能性も示唆された。

本研究事業では、このような、認知症カフェの継続的かつ発展的活動の一層の推進を図ることを目的に次の事業を実施した。まず、これまで行われてきた先行研究から把握された活発に活動している認知症カフェについて、周知方法や活用のしやすさ等を含めた特徴を設置自治体規模別にまとめ、事例集を作成した。また、認知症の診断直後または疑いの段階で早期に認知症カフェに繋がることを促進するための医療機関向けリーフレットを作成した。そして、参加者のその後の変化（要介護度や社会参加の状況、孤立防止等）の分析を通じて、認知症カフェのあり方について報告書にまとめた。

## 事業概要

## 1. 研究事業委員会の設置

## 1) 設置目的

本研究事業を推進し、目的を効果的に達成するための委員会を設置した。

## 2) 内容

- (1) 研究事業全体の方向性の検討
- (2) わが国の認知症カフェのあり方に関する議論
- (3) 過去の研究結果の再分析
- (4) 実態把握調査結果の資料化と報告書のとりまとめ

## 3) 委員構成

認知症介護研究・研修仙台センターの研究スタッフ（4名）、学識経験者（6名）、ジャーナリスト（1名）、都道府県・市町村認知症施策等の担当者（2名）、関係団体担当者（2名）。事務局職員2名がこれを補佐。

## 4) 開催地・回数・時期及び各回での検討内容

- (1) 開催地  
東京都内
- (2) 開催回数と時期  
2回（10月、12月）
- (3) 各回での検討内容
  - ①第1回委員会  
10月21日（日）東京国際フォーラム  
内容・研究事業全体の方向性の検討  
・事例集執筆依頼及びリーフレットについて
  - ②第2回委員会  
12月25日（月）東京八重洲ホール  
内容・事例集の内容及びリーフレット内容の検討

表 研究事業委員会委員名簿

氏名	所属
秋山 治彦	横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
大塚 真理子	公立大学法人宮城大学
長田 久雄	桜美林大学大学院
苅山 和生	佛教大学
繁田 雅弘	東京慈恵会医科大学
高橋 正彦	たかはしメモリークリニック
武地 一	藤田医科大学 医学部
中司 登志美	福山平成大学 福祉健康学部
奥村 登士美	丸亀市健康福祉部高齢者支援課 地域包括支援センター
鬼頭 史樹	名古屋市社会福祉協議会名古屋市認知症相談支援センター
コスガ 聡一	写真家・ジャーナリスト
加藤 伸司	認知症介護研究・研修仙台センター
阿部 哲也	認知症介護研究・研修仙台センター
矢吹 知之	認知症介護研究・研修仙台センター
吉川 悠貴	認知症介護研究・研修仙台センター

委員会の議事録作成にあたっては、株式会社アート録音に一部作業委託した。

## 2. 作業部会の設置

### 1) 設置目的

人口規模別事例集、医療機関向けリーフレットの作成のための作業部会を設置した。

### 2) 内容

- (1) 人口規模別認知症カフェ事例集の作成
- (2) 医療機関向け認知症カフェ活用促進リーフレットの作成

### 3) 委員構成

認知症介護研究・研修仙台センターの研究スタッフ（1名）、学識経験者（1名）、ジャーナリスト（1名）、医師（1名）。事務局職員1名がこれを補佐。

### 4) 開催地・回数・時期及び各回での検討内容

#### (1) 開催地

東京都内

#### (2) 開催回数と時期

1回（11月）

※予定していた2回目は、事例集文章校正作業を各自行うこととしたため1回の開催とした。

#### (3) 各回での検討内容

第1回 作業部会

11月26日（月）ステーションコンファレンス東京

内容・リーフレットの内容とデザイン作業

・事例集内容の検討作業

表 作業部会委員名簿

氏名	所属
高橋 正彦	たかはしメモリークリニック
武地 一	藤田医科大学 医学部
コスガ 聡一	写真家・ジャーナリスト
矢吹 知之	認知症介護研究・研修仙台センター

作業部会の議事録作成にあたっては、株式会社アート録音に一部作業委託した。

## 調査研究の過程

### 1. 先行研究と既存データの検討と再分析

先行研究及び既存のデータを再度分析し委員会内で検討を図った。その結果下記のような課題と実態が明らかになった。

- 1) 課題1：人口が少ない自治体は認知症カフェの設置率が低い
- 2) 課題2：高齢化率が高い自治体は認知症カフェの設置率が低い
- 3) 課題3：人口規模別による課題
- 4) 課題4：認知症カフェ継続への課題は認知症の人への周知方法と運営方法
- 5) 認知症カフェの都道府県別設置率の偏差
- 6) 認知症カフェの都道府県別充足率の偏差

## 2. 住民参加に基づく認知症カフェ継続事例の抽出

以上の課題より、次の条件に基づき、全国の認知症カフェの中から参考となる事例の抽出を行った。

(第1条件)

- ①2016年以前に設置されている
- ②月に1回程度定期的に行われている
- ③他団体等と連携して開催されている
- ④一定の参加者がある

(追加条件)

- ⑤プログラムの内容がレクリエーションを含まない
- ⑥目的が予防としていない
- ⑦継続のアイデアの記載がある
- ⑧町内会等複数の団体が実行委員形式で協力団体になっている
- ⑨参加者のバランスがよい

## 3. 事例集及び住民参加促進のための成果物作成

「1」「2」の検討及び議論をもとに下記の成果物作成の計画を立てた。

認知症カフェの設置促進及び継続のための事例集
------------------------

認知症カフェの理解を周知する共通のリーフレット
-------------------------

事業結果
------

調査研究に基づき、下記の成果物を作成し広く周知を図った。

今回作成した成果物は、認知症と診断された直後、もしくは違和感を覚える時期に専門職から認知症カフェを紹介しやすくするためのリーフレット（成果物2）と、住民参加と協働、そして継続に繋がる認知症カフェ運営促進のための事例集（成果物1）であり、認知症カフェの継続と、診断後支援に直接的に役立つものである。こうした冊子やリーフレットはこれまでにない物であり有用性が高い。また、成果物2については、認知症カフェがどのようなところなのか一般市民にも分かる内容にしており、認知症の人と家族の支えになる社会資源であることが分かりやすく明示されている。成果物1については、地域性に特化し継続を意識しており従来の事例集とは切り口が異なる。これらの点で有用性は高いと思われる。

なお、すべての成果物及び報告書は当センターホームページ DC-NET よりダウンロード可能で特設ページも作成した。これにより事業終了後も広く活用されるものと考えている。

## 1. 周知方法や活用方法等を含めた自治体規模別に整理した事例集の作成（成果物1）

認知症カフェの設置促進及び継続のための事例集であり、認知症カフェの新規設置、継続に役立つ自治体の設置規模別に整理した事例集を作成した。

### タイトル「よくわかる！地域が広がる認知症カフェ」

（目次）

1. この事例集のつかい方
2. 認知症カフェはなぜ必要なのか
3. 認知症カフェの始め方と運営の流れ
4. これから始める、さらに良くする認知症カフェの企画と運営（19事例）
  - ①地域住民との協働で継続している認知症カフェ
  - ②アクセスがあまり良くない地域で運営する認知症カフェ
  - ③人口が少なく高齢化率が高い地域で運営する認知症カフェ
  - ④都市部で集合住宅が多くある地域で運営するカフェ
  - ⑤施設でも地域と連携して運営する認知症カフェ
  - ⑥若年性認知症の人のカフェ

（仕様：A4 95 ページ、配布先：都道府県、市町村自治体担当者等）



## 2. 早期支援に資する認知症カフェ理解促進リーフレットの作成（成果物2）

診断直後の空白の期間により身近なところで専門職と出会うことを促進するための、認知症カフェを簡単に理解できるリーフレットを作成した。使用方法は、医療機関において診断直後もしくは違和感を覚える本人・家族に、専門職が直接手渡し認知症カフェにつなげることを目指している。

### タイトル「私たちの認知症カフェ」

（内容）

Q & A方式で認知症カフェの概要と基本的な情報を解説

（仕様：A4 4 ページ、配布先：認知症に関わる医療機関、行政担当窓口等）



事業実施機関

社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター  
〒989-3201 仙台市青葉区国見ヶ丘6-149-1  
電話022-303-7550（代表）